



沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



高専祭 (エイサー)

目 次

1. 校長より
(持続可能な発展)..... 2
2. 卒業生へ送る言葉..... 3
3. 卒業にあたって..... 4~5
4. 学年の学生の様子..... 6~7
5. 第4学年 インターンシップ体験記..... 8~9
6. 就職・進学状況..... 10
7. 高専祭..... 11
8. 学生の活躍..... 12~16
 - アイデア対決・全国高専ロボコン 2009
九州沖縄地区大会を開催 《沖縄高専が2年連続優勝》
 - パソコン甲子園 2009
《沖縄高専デジタルアート部が準グランプリを受賞》

- ESS / MDD ロボットチャレンジ
《沖縄高専初出場で見事「飛行競技奨励賞」を受賞》
- 高体連北部支部新人サッカー競技大会優勝
- 沖縄高専留学生在が第3回日本語弁論大会で入賞
～外国語で感動を伝える～

11. 地域連携事業..... 17
12. 学生会より..... 18
12. 後援会会長挨拶..... 18
13. 保健室より..... 18
14. 平成22年度学生募集結果一覧..... 19
15. 学生課窓口のご案内..... 19
15. 平成22年度(前期)行事予定表..... 20



持続可能な発展

校長 系村 昌祐

昨年10月1日に新しい高等専門学校が4校誕生しました。平成16年に、55番目の国立高専として誕生した沖縄高専が最新の高専でしたが、新高専の誕生によりその記録が変わったことになります。ただし、国立高専が55校から59校に増えたのではなく、全国4地区で近隣にある2校ずつが再編され、従来、校名に使われていた「工業」「電波」「商船」が無くなって、単に「高等専門学校」となった訳で、キャンパスとしては55ですが、学校名は51になりました。平成18年5月に日本を訪れた経済開発協力機構(OECD)の調査団が、日本全国の大学等の高等教育を視察し、「大学や大学院の教育に比べて、高専の教育は素晴らしい」と絶賛し、中央教育審議会も高専教育の充実を提言している中での高度化再編でした。高い評価に満足することなく、時代のニーズ・社会のニーズを先取りして、常に前進する高専であることが求められていると思います。

10月16日の午後、熊本県立劇場コンサートホールで開催された、「熊本高等専門学校」(熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校の高度化再編による)開校記念式典に出席しました。式典でNHK解説主幹室山哲也氏の「22世紀型人類になろう」と題する特別講演がありました。講演は、「地球をバスケットボール、月をテニスボールに例えたとき、テニスボールはバスケットボールからどのくらい離れたところにあるか?」という質問から始まりました。温暖化や人口爆発(日本は人口減少国となっていますが)など、人類が22世紀を迎えるための課題を挙げ、「エンジニアとしてどう向き合うか」という問いかけと激励でした。「ここはどこか?」「なぜ、私はここにいるのか?」「私は誰か?」「私は何をやるのか?」「今はいつか?」など、自問しつつ、バックカスティングの手法が大事だと述べていました。バックカスティングとはスウェーデンの環境NGOが使い始めた言葉で、「将来を予測する際に、持続可能な目標となる社会の姿を想定し、その姿から現在を振り返って、今何をすればいいかを考えるやり方(大辞泉:kotobank)」つまり、「将来」の在るべき姿を描き、その将来を迎えるために、「今」何をするかという考え方です。1980年に国際自然保護連盟、国連環境計画などがとりまとめた「世界保全戦略」には、環境と開発は不可分の関係にあり、開発は環境や資源という土台の上に成り立つものであって、持続的な発展(Sustainable Development)のためには環境の保全が必要不可欠であると述べられています。今日では一歩進んで、環境再生を最優先する方向への社会経済の転換を表す包括的な用語として、「持続可能な発展」「持続可能な社会」「持続可能な〇〇」などのように用いられています。

平成12年3月に国立高等専門学校(沖縄)創設準備調査室長に任命され、沖縄高専の設立に関わってからそろそろ満10年になります。森田孟進琉球大学長(当時)を委員長とする創設準備委員会で、21世紀の初頭にできる55番目の新しい高専、沖縄県に創設される高専の在るべき姿を論じていただきました。諸準備作業を行うために創設準備調査室に配置された室員は、事務職員5名と私の計6名でした。学生・教職員合わせて1,000名に近い現在の沖縄高専を見ると、まさに10年一昔です。教職員の皆さんと学生諸君の努力、後援会を組織していただいた保護者の方々、沖縄高専産学連携協力会の関係各位、辺野古区をはじめとする地域の方々のご支援にあらためて感謝の意を表しますとともに、沖縄高専の「持続可能な発展」を祈ります。

(3月末の定年を控え、九州沖縄地区校長・事務部長会議出張前夜の校長室で)

卒業生へ送る言葉



機械システム工学科

担任 松崇 準治

機械システム工学科5年生諸君、ご卒業おめでとう御座います。皆さんとは長～い付き合いになります。入学式で学科担任として、君たちの名前を読み上げてから5年が経ち、その間担任として付き合いもらい感謝しています。可愛かった君たちが、さらに可愛さを増して（外見のことではない）巣立って行くことを思うと感慨深いものがあります。

しかし、君たちは感慨にふけっている暇はありません。社会に役立つ技術者となるための研鑽は、これからが本番です。直接業務に関連する知識は、OJT（On the Job Training）にて勤務のなかで修得することになりますが、仕事を理解するために必要な知識は沢山あり自己啓発による修得以外手段がありません。高専での学習は、これらの知識を得るための手がかりとなるもので、一生自発的な勉強が必要です。技術者として、人間として、常に上を目指して精進することを期待します。40年を越える時間には、無限の可能性が秘められていて、それは皆さんの努力次第です。

最後に沖縄高専は、皆さんが作っていく学校です。今後はOBとして伝統を積み上げて行って欲しいと思っています。そして、たまには沖縄高専に来校して後輩への情報提供や指導をお願いします。



情報通信システム工学科

担任 兼城 千波

情報通信システム工学科卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。この不況の中、就職活動では特に苦戦を強いられる中、就職18名、進学17名で、全員の進路が無事決定したこと、大変うれしく思います。さて、私と皆さんとの出会いは、私が沖縄高専に着任した平成19年からの3年間になります。担任になってからのこの2年間は、良くも悪くも貴重で意味のある時間を過ごしてきたように思います。最初に教壇に立ったときのこのクラスの雰囲気は、発する言葉が学生に届いているのか、わからないような重い空気で、今でもあの印象は忘れません。皆さんと接することに試行錯誤する日々の中で、皆さんも成長し、私も勉強させてもらったと思います。普段は個々が孤立しているように見えても、高専祭などのイベントのときの結束力の強さには驚かされました。10代という多感な時期に出会った仲間や経験は貴重です。いつまでも忘れないでください。

これから歩いていく人生の中で、いろんな人と出会い、いろんなことを学び、経験していくでしょう。これらがすぐに結果となって現れる訳ではないと思います。それでも、何年後かに笑顔で仲間に出会えるように、培ってきた経験を生かし、活躍できる人材に成長することを期待しています。最後にこの言葉を贈ります。
“The reward of suffering is experience. Knowledge is power.”



メディア情報工学科

担任 角田 正豊

卒業おめでとうございます。進学する人もいますが、何年かするとみんな社会にでます。私の社会人としての経験から少し書かせてもらいます。私は周りの人が輝いていて自分が全く価値のない人間に見えるときが何度もありました。皆さんもきっとそんな時があると思います。そんな時は次の童話を思い出して下さい。

山のてっぺんに小さな木が立っていました。その木は将来を夢見て、「僕は金や銀で飾って、宝石をいっぱい入れた世界一の宝箱になるんだ」と星を見上げながら言いました。何年かたち、木は成長しりっぱな大木になりました。ある日、木こりがやって来て木を切り倒しました。「宝箱になれるのだ」と木はつぶやきました。木は大工さんの仕事場に運ばれました。しかし、大工さんが作ったのは宝箱でなく、飼料桶でした。金や銀で飾られることも宝石に入れられることもありません。動物のための飼料が入られました。落胆して何年も何年もたち、木は自分の夢をすっかり忘れてしまいました。ある夜、木はまばゆいばかりの金色の光に照らされました。若い女性が生まれたばかりの赤ん坊を飼料桶に寝かせました。その時はじめて、木は気づきました。自分は世界で一番貴い宝物を入れているのだと。

卒業する皆さんはそれぞれ夢を持っています。皆さんの一人一人の人生には、素晴らしい計画が用意されています。だから、皆さんの心の中に夢があるのです。人によってその計画が異なり、夢が実現する時が違うだけです。



生物資源工学科

担任 平山 けい

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。5年間の学校生活を送ってきた中で、卒業までに様々なチャレンジをし、多くの壁を乗り越えてきた皆さんに心からおめでとうの言葉を送ります。沖縄高専の学校生活で得たものは、皆さんがこれから歩む長い人生の堅い礎となることと確信しています。どんな時にもあきらめることなく自分の信じた道を突き進んで行ってください。

生物資源工学科の5年生には、担任として、また時には母親のような気持ちであれこれ本当に心配させられることの多かった5年間でした。その一方、皆さんから数えきれないほどの元気や感動をいただきました。沖縄高専で皆さんに出会い、皆さんの担任をさせていただき幸せな毎日でした。本当にありがとうございました。この5年間、皆さんは本校の学生としていろいろな意味で守られ、また、ご両親、ご家族、友達、教職員等多くの方々から支えられて過ごして来ました。就職していく学生はもちろんのこと、進学の学生もいずれは社会の一員として今度は誰かを支え、誰かに感謝される立場に立つことと思います。どうぞ、お世話になった方々への感謝の気持ちを今後も忘れずにいてください。それぞれの場で皆さんが活躍されることを願っています。皆さんの活躍が母校沖縄高専を育て、後輩を育てることにつながります。卒業生の皆様がどこにいても健康で幸せな日々を送られますよう願ってやみません。

「しあわせは いつも じぶんのこころがきめる」 相田みつを



胡宮 廣一郎

沖縄高専公式サイトの入試情報欄にて「平成17年度 機械システム工学科入学者 合計41(0)」に衝撃を受け、私の青春時代は一体どうなるのだろうと不安に思いながら入学したあの気持ちをいまでも鮮明に覚えています(()は女子で内数を表わす)。しかし、そんな思いがかき消されるほど、高専生活、いや2期生機械科生活は有意義なもので、逆に同性ばかりという環境が本当の自分をさらけ出すというか、飾らないすくすく学生生活をおくることができ、沖縄高専生であることに誇りを感じます。

この5年間で成長したと思うのは、物事の見方についてです。いままでは何気なく見ていたものでも、原理はどうなっているのか、それはどのような意味を持ちどのような影響を与えるのかなどと、ある情報を鵜呑みにするのではなく、何事に対しても本質を考えるとという見方が鍛えられている変化を感じます。

5年生。現在20歳をむかえた私は、人生の約1/4を沖縄高専の学生で過ごしたことになります。苦しく果てしなく長い5年間とを感じるか、はたまた長い人生のたかが5年間とを感じるか、時間感覚は人それぞれだと思いますが、卒業するにあたっていま私が思うのは、ここまでこれた周囲への感謝の気持ちです。いついかなるときでも私たちに対する愛情で溢れていた機械科の父、松栄準治先生、共に切磋琢磨し時を刻んだ友人一同、大学とは違い距離が近く親近感が湧く教職員の皆様、そして最後に、寛大かつ温かな心で私の長き学生生活を見守り支えて下さった私の両親に心より深く感謝申し上げます。ありがとうございます。



奥間 貴祐記

残り1ヶ月を切った高専生活。親元を離れての寮生活に不安を抱きながらの入学からはや5年。この5年間を振り返ればレポートや試験、今は卒業研究に追われながらの毎日でした。もちろん辛いことだけではなく、多くの友達と楽しい思い出を作ることができました。この5年間で多くの事を経験し様々なことを学びましたが、その中で得られた一番大切なものは友達だったと思います。友達に支えられ、時には支えたこともあったかもしれません。ここで出会った友達は一生の宝であり、卒業してもその関係は続けていきたいと思っています。そしていつか、社会人になったみんなと会えるのが楽しみです。

この文章を書いていくうちに、もう卒業するのだと実感が湧いてきました。いざ卒業を前にすると、学生のままでいたいと思う気持ちが半分、はやく社会に出て一人前と認めてもらいたい気持ちが半分とあります。高専に入学する前の気持ちと似ています。また何年後かに、この文章を書いていた自分を思い出して、あの時の選択は正解だったと思えるような充実した社会人生活をおくりたいです。

今はまだ学生で親に面倒を見てもらっていますが、これからは親孝行という形で恩返しをしていきたいです。社会人生活を目前にまだ学生気分が残っていますが、立派な社会人になれるよう努力したいと思います。また、沖縄高専の卒業生としてその名に恥じぬ行動を意識して、ここ沖縄高専を卒業していきたいと思っています。



東比嘉 仁哉

卒業まであとわずかかとせまった今日の頃、卒業研究や各科目での課題など、毎日忙しく過ぎており、忙殺という言葉が似合うほどである。まあ、そんな中で少し手を休めて、今までの振り返ってみようと思う。

2005年、ここ沖縄高専に入学して最初の年。あまり使い慣れないパソコンと格闘しながら、一生懸命に授業についていこうと必死だったことを思い出す。その後、2年に無事進級して、この年に初めて高専祭を経験した。外部からお客さんと呼んでやるイベントということで大いに盛り上がった。3年になると、学科ごとのクラス編成になり、専門科目もいよいよ本格的に授業をやり始めたなという印象があった。4年になると、インターンシップを経験した。実際に企業に約2週間お世話になるのだが、自分にとっては今後の進路や考え方に大きな影響を与えるいい経験だったと思う。そして、5年。

いろいろ振り返ってみると、なかなか濃く充実した5年間だったのではないかなと思う。(まあ課題やらレポートなどの提出物が多く、いろいろ忙しかったが……。)

そんな中でも一番印象に残っているのは、この5年間を一緒に過ごしてきた仲間たちだと思う。高専での5年間を明るく楽しく、そして切磋琢磨して過ごせたのは、みんながいたからこそだと思う。当たり前のことではあるが、4年生以下の皆には、頼ったり頼られたり、またお互いに切磋琢磨できる、たくさんの仲間を作ってほしいと思う。それでは。



和田 菜々

沖縄高専に入学して早5年…と言えばウソになってしまう私の高専生活。高松で2年、沖縄で3年。今思い出すのは楽しかったことばかりです。中学とはまるで違う環境。2つの高専での新しい友達との出会い。“感動”という言葉を実感した高専大会。お昼休みのお弁当や放課後のおしゃべり。もちろん、そんな5年の間には、悩んだことも泣いたこともたくさんありました。その代わりに得たのが、思い出と大切な人たちです。一番楽しい青春期を同じ場所で笑った友達。一緒に感動を味わった部活動の仲間。本当に憧れた素敵な先輩。不安なときに笑顔で元気をくれた後輩。この人たちとの出会いこそが高専に来てよかった理由だと言えます。また、転校後、勉強面などでサポートしていただいた先生。そして、どんなときも力を貸してくれて頑張れと言ってくれた両親。言い表し切れない感謝の気持ちでいっぱいです。

今の正直な気持ちは、卒業を迎えたくありません。沖縄を離れたくありません。もうすぐ離れ離れになってしまう、ここで出会った大切な人たち。その人たちと一緒に過ごす時間が少しでも延びればいいのに、と願うばかりです。そんな私は当然、“社会人”になるということに大きな不安をもっています。しかし、また笑って再会できるように、そんな日を楽しみに、新たな旅立ちを迎えたいと思います。みんなにとって“沖縄高専”は最高の場所でしたか？本当にありがとう。



賀数 恵太

5年間というのは20年間の4分の1にもなって、一見長いように見えますが、今振り返って見るとあっという間でした。追われるレポート、PBL、試験の中で、友達と徹夜で遊んだりもして、遊んでは課題、遊んでは試験…の繰り返しの5年間でした。

学年が上がり、4年生になった時、学修単位が導入されたこともあって授業が減りました。授業が減ると、友達と遊ぶ時間も増えたのですが、自分一人の時間も同時に増えました。一人の時間が増えると、あまりにも勿体無いので暇な時間を何か有効活用できないかなと考え始めるようになりました。そこで、授業で習ったけどもうほとんど忘れていた知識をインターネットで調べながら思い出し、サーバーを作ってみたり、簡単なソフトを作ってみたりしました。驚いたことは、自分には無理かなあと感じていたのですが、授業で習った知識と本当にちょっとの+αでサーバーもソフトも作れてしまったことです。もしかしたら今まで学んだ知識を使ったら何でも出来てしまうのではないかと思ったほどです。5年生になって、改めて高専ってすごいなあと感じています。

5年生の後半になると、友達もみんな就職先や進学先が決まって、卒業後の話もするようになりました。今から楽しみなのは、OBで集まって飲み会などをすることで、進学してまた大学生の友達に奢ってやろうとたくらんでいます。



黒田 千亜希

本当にあっという間だった5年間。沖縄高専に入学して、寮生活、学生生活を通して得たものは数知れず。

沖縄高専には様々な施設や設備があり、一般校では体験できないようなことを多く経験することができます。私は、メディア情報工学科に入学して、映像制作を体験しました。実際の映画でも使用されているようなカメラに触れるチャンスがあり、普段は使えないような編集ソフトも使用することができました。作品制作は、自分が考えていたよりもずっと大変でした。作品の構成がなかなか決まらなかったり、撮影中の急なアクシデント、編集の難しさなど、苦労することが多かったように思います。しかし、ひとつの作品が仕上がるときは、十分な達成感を得ることができました。

また、沖縄高専での学生生活では技術だけでなく、仲間との強い繋がりを築くことができました。大切な時期の5年間だからこそ、友人関係で悩むことも多々ありましたが、同じ環境で学んで生活してきた仲間と一緒に乗り越えられたこともたくさんあります。

「親しき仲にも礼儀あり」という言葉のとおり、気を使わないような親しい仲だからこそ、相手を思いやることは大切だということを実感しました。

これから先、みんなそれぞれ別の道を歩いていくことになります。様々な困難にも巡りあうことでしょう。沖縄高専で学んだことを胸に深く刻んで前を向いて進んでいきたいと思っています。



當銘 由亮

長いようで短かった5年間。いえ、私にとってはとても長い長い5年間でした。一年生から色々なレポートの提出、数学のデスマッチ、中間・期末テスト…今考えてみるとよく頑張ったと思います。また1年からやり直せと言われても絶対不可能です…。これら乗り越えてこられたのも友達の存在があったからだとつくづく思っています。話し合って問題を解決していったり、分からない所などを教えあったりと、皆が協力することで仲が深まり結束が強くなりました。また勉強以外の面でもパカな話をして笑いあった事など楽しかった日々が蘇ります。私はこの高専で出逢った友達をいつまでも大切にしていきたいと考えています。また両親や先生方も私を支えてくれました。ありがとうございます。

生物資源工学科では化学・生物・環境の事など幅広い分野を色々学んできました。その中で私は環境の事について興味を持ち、学ぶことが出来ました。私はこの学科を選んで高専に来てよかったと思います。

これから卒業して就職・進学など皆別々の道に進みます。友達との別れに寂しさはあるのですが、また新たな場所で成長できることを考えると気持ちが高ぶります。私の好きな言葉に「今を一生懸命」という言葉があります。その言葉を胸に、ここで過ごして学んだことを活かして、前へ突き進んでいきたいと思っています！



新川 舞

私にとって沖縄高専での5年間は、辛いことも多く、それと同じくらい楽しいこともあり、充実した5年間だったと言えます。それと同時に多くの人に出会えたことを嬉しく思います。

私は高専に入学して、3年生くらいまでは毎日の授業に追いつくことだけに必死で、将来の目標を持っていませんでした。それに気づいたのは進路を決めたときです。自分がどうしたいのかという考えが全くなく、何がやりたいのだろうとざりざりまで悩んでいたことを覚えています。そんな私を救ってくれたのは友人たちでした。友人たちは悩みを一緒になって考えてくれたり、時には励ましたりもしてくれました。そして、大学への編入を考えた私が、無事合格したときには自分のことのように泣いて喜んでくれました。この友人たちと出会えたからこそ、私はここまでこられたのだと思います。

「出会いは偶然、別れは必然」という言葉があるように5年前に偶然にも出会った私たちは、3月にこの沖縄高専を卒業してしまい別々の道を歩むこととなりますが、この出会いを決して忘れることはないでしょう。そして、4月からは新しい環境で、たくさんの人に出会おうと思いますが、一つ一つの出会いを大切にしていきたいと思っています。

最後に、今まで私を支えてくださった皆さんに感謝を捧げたいと思います。5年間本当にありがとうございました。

1 学年の様子

1 学年主任 青木 久美

今年度の1年生は、クラス毎にかなり雰囲気が違うようです。大人しいクラス、ワイワイと賑やかなクラスなどあるようですが、共通していえることは、最初はぎこちなかった学生たちが、この1年間で、教員に頼らず自主的に、そして互いに協力して何かをなしとげる、ということを身につけたということです。

その大きなきっかけとなったのは高専祭でしょう。今年は、高専祭を間際にして、インフルエンザによる学級閉鎖や学科閉鎖（情報）に続いて、学年閉鎖が施行され、高専祭の開催自体も危ぶまれました。また、通常であれば高専祭の準備にあてるべき時間の多くが、閉鎖後の補講に割かれてしまいました。

このような差し迫った状況のなかで、学生たちは、一致団結して努力し、彼らにとって初めての高専祭を成功させてくれました。教員一同、感心せざるをえなかったのですが、この経験を通じて彼らが学んだこともまた大きかったことでしょう。

インフルエンザの流行は、また、彼らの学業成績にも、多かれ少なかれ影響を与えました。中間試験の期間が短縮され、1日に実施される試験の数も普段よりは多くなってしまったからです。その結果、十分な準備ができず、予想以上に悪い成績をとってしまった学生もいることと思います。リーダーシップと団結力が要求される高専祭とは異なり、成績の問題は、ひとりひとりが努力して乗り越えていかなければなりません。自分自身に打ち勝つことができるかどうかです。来たる期末試験での、彼らの底力の発揮に期待しています。



2 学年の様子

2 学年主任 澤井 万七美

平素より本校への御理解ならびに御尽力を賜り、篤く御礼申し上げます。

さて、2年生も終盤にさしかかり、3年生以降の専門課程に向けて、学生たちの意識も高まりつつあるようです。今年度行った学科別の就職・進学ガイダンスについては、「もっとこういう機会がほしい」「卒業生の先輩たちの声も聞きたい」という声が多数あがり、将来像を積極的に模索しようとする姿勢が育ってきていることを実感しております。

“「アクション（前に踏み出す力）」・「シンキング（考え抜く力）」・「チームワーク（チームで働く力）」：これが、社会人基礎力の3大要素である。”—今年の2年生に伝えたメッセージの1つです（経済産業省提言）。高専における教育は、まさにこれらを育成することです。学生たちもよくそれに応え、成長しつつあります。

人に引っ張ってもらうのを待つのではなく、自ら行動することで、社会に貢献する人材に育ててほしいというのが、我々教職員一同の願いです。そのためには厳しく指導することもございますが、どうぞ御理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





3 学年の様子

3 学年主任 眞喜志 治

現3年生は本校4期生にあたり、162名が在籍しています。そのうち2名はバングラディシュとラオスからの留学生で、情報通信システム工学科とメディア情報工学科にそれぞれ1名が在籍しています。

3年生からは2年生までの混合クラスと違って学科別のクラスとなり、また専門科目の授業が増えます。所属する学科の教員と接する機会が増えることで、専門分野への意識が高まり、また学んでいくことが見えてくる時期でもあります。比較的レベルの高い専門科目が増えることで、当初は戸惑う学生も見受けられましたが、幾度かのレポートをこなし、試験を乗り越えることで、多くの学生が「当たり前のこと」、「きちんとついていける」と思えるようになってきていると感じています。中には「もしかしたら追い越してるかも!?!」と考えている学生もいるような気がしています。

昨年の9月23日～26日の3泊4日の日程で実施された研修旅行では、学科ごとに関連のある東京近郊の企業を見学し、最終日には今話題のJALの整備場を見学しました。4日間のうち、1日は「自主研修」という名の自由行動時間に当てられ、各自で興味ある場所を『それなり』の目的を持って訪れ、有意義に過ごしたことと思われます。都会の空気を味わい、新鮮な経験をしたことは彼らの今後に活かされるものと期待しています。

4年生になると、インターンシップを始めとして、会社説明会や大学による学校説明会など、進路を決める上で重要なイベントが数多く催されます。学生の進路決定には皆様のご支援が不可欠です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

「将来目標を悩み考える頃」

4 学年主任 比嘉 勝也

「静かに。」講師の優しい声がホールに響き4年生全員が一瞬で黙り込む。講義では有り得ない光景で学生の意識の変化に驚く。聞く態度の変化から学生が自分の進路を真剣に考えていると感じる。この1月の就職セミナーでは、模擬面接や会社採用担当の方の実際の採用に関する話など今春就職活動の行う4年生にとって貴重な時間となった。

昨年夏休み期間、将来の進路選択・社会勉強の一環として企業へのインターンシップを実施した。不況で受け入れ企業が少ない状況や新型インフルエンザの影響もあり学生が会社選択に苦慮する場面が多々見られた。就職先候補として企業を選ぶ学生もいれば旅行気分の学生もあり、この時期はまだ進路に対する学生の意識には温度差があった。12月に入ると各学科とも学生との個人面談や保護者面談などを行った。インターンシップ体験後のためか各学生は進学か就職を明確にしているが、その進路に対して凛とした考えを持つ学生がいる反面、考え方に幼さや安易さを感じる学生も居て心配である。今年1月になると県内企業説明会や校内での会社説明会、大学進学説明会への参加、既に始まった企業採用面接への参加など、4年生は今後学業だけでなく進路決定まで多忙な時期が続くことになる。

最後に、今年1月に同級生が不慮の事故のため夢半ばで人生を閉じることとなった。4年生諸君にはその学生のためにも自身の将来目標を悩み考え、その目標に向かってしっかりと歩むことを願うばかりである。(終)



◀4年生対象の就職セミナーの様子



沖縄県工業連合会主催の
県内企業説明会の様子▶

インターンシップ体験記

機械システム工学科



4年 又吉 勇介

私は大阪府富田林市にあるカンメタエンジニアリング株式会社という会社に、1週間インターンシップに行きました。カンメタエンジニアリングは「溶射」という特殊な加工方法を専門とした会社です。

今回のインターンシップでは、溶射に関する基礎的な講義や、溶射の実習を体験することができました。講義の内容は高専の授業で習ったことが基本になっていたのですが、そのほとんどが専門的であったのにも関わらず、話を深く理解できたのには自分でも驚きました。普段、学校の学科内でしか通じなかった専門的な知識が企業の方と通じ合ったときはとても嬉しかったです。

私がこの1週間で学んだことは、学校と企業の厳しさの違いです。学校でも材料加工の実習で試験片の製作などを行っているのですが、寸法など規定通りに従っているつもりでも失敗してしまうことが度々あります。しかしそれは学校だから許されることであって企業ではあってはならないことです。カンメタエンジニアリングでは、大半がお客様から製品を預かり加工して返却するといった業務の流れです。もしここで加工に失敗してしまったら製品ごとに弁償しなければならないし、さらに会社自体の信用度が失われてしまいます。そんな厳しい社会の中にこれから私達が入っていくのかと思うと、不安が大きくなりました。しかし、それを就職前に気付くのと就職後に気付くのとでは、精神的に大きな違いがあると思います。私は本校のインターンシップという制度と、それを受け入れて下さる企業にとっても感謝しています。



4年 平良 理美

私は平成21年9月14日から18日までの5日間、沖縄県宜野湾市にある株式会社佐喜真義肢という会社にインターンシップでお世話になりました。この会社は、社員総数が30人程度の企業で、主に義足・装具をすべてオーダーメイドで設計・製作している会社です。中には会社独自の技術で特許を取得した製品もあり、それを目的として訪れる人も多くいます。この5日の間で、お客様の採寸、製作所での装具の組み立て作業から病院・リハビリセンター等への営業まで、1つの製品の受注から納品までの一連の流れを見学・体験させていただきました。

インターンシップ中、朝は7時40分までに出勤し、ラジオ体操・朝礼を終えて、1日の作業が始まります。初日は会社の概要や製品の説明などの座学、各部署の仕事を見学して会社がどう成り立っているかを学びました。翌日からはほとんどが作業で、廃材を使用して数種類の装具の組み立てを行いました。組み立てる際に使う工具は特殊なものが多く、学校では経験できないことを体感しとても新鮮でした。製品の組み立て作業の合間に、直接会社に訪れたお客様の採寸・修理・調整の見学をしました。3日目になると、病院やリハビリセンターへ営業に同行させてもらいました。病院では、症状の重い患者さんの採寸前の状況確認や直接採寸、調整、製品の紹介をしました。これも見学でしたが、医療業界の独特な空気を肌で感じることができ、とても勉強になりました。この調子で3つの製品の組み立て、病院やリハビリセンター等に4か所同行するという内容を5日間で体験させてもらいました。

佐喜真義肢という会社は医療業界寄りの会社で、学校では経験できないことがほとんどでした。作業内容によっては特別な資格が必要なものもあり、義肢装具専門学校の卒業者や先生もいて、とても専門的な現場でした。また、ミシンを扱う縫製部門は全員が女性従業員という、女性も働きやすい職場だと思いました。

今回のインターンシップで学んだことは、将来の選択は無限にあるということです。私の専門は機械システムなので主に機械工学の分野ですが、今回医療業界に触れて、とても視野が広がりました。高専にいらしてどうしても将来の選択を専門分野に絞ってしまいがちですが、様々な情報を取り入れ、積極的になることで選択の幅はどんどん広がることが実感しました。今回の経験を、就職活動等の将来につなげていきたいです。



4年 島袋 洋一

私は、神奈川県横浜市にある東京エレクトロニクス株式会社で10日間のインターンシップを体験しました。この会社は国内・海外から半導体やコンピュータネットワーク機器などを調達し、お客の設計に関する技術サポートや製品情報を提供するビジネスを行っています。

実習では、会社の新人研修のプログラムで使われているVHDLの記述トレーニングを行いました。研修で使ったテキストはとても理解しやすく感動しました。また、商談にも同行させて頂き、実際に製品開発に関する話を伺うことができました。

配属された部署には沖縄高専卒の先輩がいたのでとても心強かったです。また、会社の雰囲気はとても良く、就職活動をする際、会社の雰囲気は大切な要素だと感じました。

インターンシップ前はとても緊張していましたが、実際に行ってみると自分でも驚くほど積極的になり、他の高専生や大学生とも仲良くなることができました。

最終日には、期間中に学んだことを発表する研修課題発表があり、私はFPGAを用いた電子サイコロを設計し発表しました。学校での発表よりはるかに緊張しましたが、なんとか成功させることができました。

最後に、人事部の方の話を伺う機会があり、就職に対する心構えや面接のコツなどを教えて頂きました。インターンシップでは、学校で絶対にできない貴重な体験ができました。後輩の皆さんにもインターンシップは真剣に取り組んでほしいと思います。



4年 新川 真以

私は、他高専との交流、実際の現場見学、英語の苦手克服の3つを目標に、2つの企業のインターンシップに参加しました。

最初の会社は富士通(株)で、グループワークを中心とした実習を体験しました。インターンシップには約100人の学生が参加しました。実習会場が会社とは別の場所だったため、会社の雰囲気を直接感じることはできませんでしたが、就職内定者や採用担当者を含め、多くの人と交流することが出来ました。参加した学生と実習後に食事に行ったり、ホテルで夜遅くまで内定者を囲んで就職相談会を開いたり、本当に充実した1週間で過ごすことができました。

次の会社は東京エレクトロニクス(株)で、前半は熊本会場で工場見学や技術面での講義を中心とした実習を行いました。その後、東京本社に移動し、ビジネススキルの研修を中心に実習を行いました。最終日には英語中心の講義を受けた後、Tea Partyという名の英語発表がありました。私は英語に対して苦手意識があったのですが、社員みなさんが熱心にサポートしてくれたので、少し自信を持てるようになりました。

インターンシップ活動では、実習内容や実習先について、先生のもとへ通り事前に情報を収集することが大切だということも学びました。2社目の会社は、その情報収集をしていたからこそ行けた企業です。この行動力と、インターンシップを通して学んだことを今後の就職活動にも活かしていきたいと思います。

情報通信システム工学科

インターンシップ体験記



4年 津波古 渉太

私は、福岡県にある株式会社富士通九州システムズに2週間お世話になりました。富士通九州システムズは、主に企業・官庁向けのソフトウェアの開発を行っている会社です。私は、大学・短大・高専などの事務処理システムの開発を行っている部署に配属されました。

職場の雰囲気は非常に明るく、社員の皆様は優しく気さくな方々ばかりでした。初日の業務が終了する頃には緊張もほぐれ、非常に居心地よくインターンシップ期間を過ごすことが出来ました。業務時間外でも食事に積極的に誘って頂き、そこで会社説明会やパンフレットでは分らないような、貴重なお話を伺うことが出来ました。

インターンシップでは、システム開発作業や仕様書作成を体験させて頂きました。実際にSEの仕事を経験して学んだことは、学校や資格試験で学んだ専門的なプログラミング技術やシステム設計技術だけではなく、文章力を含めたコミュニケーション能力が重要だということです。例えば、システム設計の際に担当の方と要求事項の認識の不一致が発生して、大幅な作業手戻りをしてしまいました。また、システムの仕様書や日報を書いた際には、説明不足の点・表現が不明瞭な場所の指摘を多く受けました。今後は、専門的な技術だけでなくコミュニケーション能力も磨いていきたいと思います。

働く職場の雰囲気を肌で感じる事が出来たのは非常に貴重な経験となりました。この経験を今後の進路選択に活かしていきたいです。



4年 前當 祐希

私は沖縄県内の「株式会社レキサス」という会社に2週間お世話になりました。レキサスでのインターンシップは職場体験という雰囲気はありませんでした。初日から、7分間の自己紹介や理想の大人像について語るなど、自分の考えたことを人に伝えるということを学校で勉強するよりも多く体験することができました。二日目、三日目にはレキサスが提供しているサービスについて社員の方から直接お話を聞くことができ、社員の皆さんの事業に対する熱い思いを感じることができました。

残りのインターンシップ期間中は主に、グループ学習で新規事業の提案を行いました。私たちのチームは「携帯電話で撮影した顔写真にメイクをする」というシステムを考案し、最終日には社員の皆さまに対してプレゼンを行いました。このグループ学習をとおして、新しいアイデアを出すことの楽しさや、それを新規事業として練り上げる難しさを学びました。最終日のプレゼンの後に社員の方から「面白いアイデアだった」「化粧品会社と提携するシステムにすると儲かるのではないかな」「熱意があって良かった」など感想や意見をいただいたことがとても嬉しく、印象に残りました。

インターンシップに参加する前は不安もありましたが、参加してみるととても楽しく、充実した2週間を過ごすことができました。インターンシップで得たものを無駄にせず、今後の学校生活や就職活動に役立てていきたいです。



4年 加賀 航

私は将来、生態学の研究者になりたいと考えていたので、インターンシップ先を東京農工大学の森林生態学研究室に決めました。

まず、はじめの5日間は群馬県川場村で「植生アドバイザー研修」に参加しました。この研修は一般の社会人に向けて開かれるもので、全国から様々な企業や組合の方々が参加していました。そこで私は日本の植生と景観等、森林生態の様々な事柄について学び、生態系保全の必要性とその方法を知ることができました。また、実際にブナ林や湿原で野外観察を行い、グループでの植生調査とデータ整理について体験することができました。研修中は、毎晩、美味しい食事をいただきながら、様々な職業の方々と交流することができ、興味深いお話を沢山聞くことができました。

次に、山梨県小菅村と静岡県函南町にて、農大4年生の卒業研究の調査に同行しました。各調査場所では、学生の方々が互いに協力しながら異なるアプローチで、樹木の測定等の調査を進められていました。私もいくつかの調査に参加させていただき、調査の大変さややりがいを感じる事ができました。

はじめは不安でしたが、インターンシップ中は常に新しいことの連続でした。研修では社会人の方々から普段聞けないようなお話を聞くことができましたし、色々な場所で教授や学生の方々と過ごすうちに自分の価値観が変わっていくのを実感できました。今回のインターンシップで貴重な経験を得ることができて本当に良かったと思います。



4年 天久 朝恒

私は茨城県にある「キューピー株式会社五霞工場」でインターンシップを行いました。キューピー株式会社は、マヨネーズ・ドレッシングなどの調味料・加工食品事業などでよく知られており、私は食品の分野に興味があったのでこの会社を選びました。

仕事内容は、主に製造ラインでの作業でした。まず製造ラインの各工程についての説明をしていただき、実際にラインに入りました。資材供給や原材料投入、製品や機械の定期点検、機械のオペレーターから容器の洗浄まで、製造ラインのほとんどすべての工程を手伝わせていただきました。品質チェックなど、作業自体はそんなに複雑なものではありませんでしたが、ここで作られた製品が工場の外にでて、実際にお客様に届くと思うと少しも気を抜けませんでした。一日の作業の中でも機械や製品の定期点検は非常に多く、特に製品の品質チェックは各工程欠かさず行われていて、この実習を通して安全で高品質な製品を作り続けることの大切さを学びました。

また、毎日違った担当の方に指導していただき、こちらの質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださいました。社員の方々とコミュニケーションをとる中で、仕事に関することに限らず、様々なお話を聞くことができたことも非常にいい経験となりました。

今回のインターンシップを通して、以前までは曖昧にしかイメージできなかった「食品メーカーの製造ラインの仕事」というものが、はっきりとイメージできるようになりました。この経験を今後の進路決定に役立てたいと思います。

就職・進学状況

沖縄高専では、平成22年3月に第2期生142名が卒業する予定であり、そのうち76名が進学、66名が就職を希望しています。

就職については、平成22年1月末日現在、就職採用内定率は100%となり、計57社（内県内企業15社）から内定をうけました。また、沖縄高専への求人企業は330件を超え、県内外企業の沖縄高専への期待の大きさがうかがえます。各学科ごとの進路決定状況は下記のとおりです。

H22.1.31 現在

	機械	情報	メディア	生物	合計
卒業予定者	35	35	33	39	142
進学内定状況	進学希望者	19	17	29	76
	合格者数※1	18	17	29	75
	うち3年次編入等進学	6	7	18	38
	うち専攻科合格	12	10	11	37
	進学決定率 (合格者数/進学希望者数)	94.7%	100.0%	100.0%	98.7%
	進学先※2	豊橋技術科学大学(5) 京都工芸繊維大学	福井大学 豊橋技術科学大学(2) 奈良女子大学 宮崎大学(2) 首都医校(看護保健学科)	電気通信大学 琉球大学(3) 札幌市立大学 デジタルハリウッド東京 デジタルアーツ東京	新潟大学 長岡技術科学大学(2) 筑波大学 静岡大学(2) 岐阜大学(3) 豊橋技術科学大学 佐賀大学(2) 鹿児島大学 琉球大学(3) 武蔵野大学 首都医校
就職内定状況	就職希望者数	16	18	22	66
	内定学生数※1	16	18	22	66
	内定率 (内定学生数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	内定先企業名(県内) 県内に本社のある企業	サンシャイン	沖縄電力(2) インデックス沖縄 沖縄菱電ビルシステム 開邦工業	沖縄グローバルシステムズ 沖縄クロスヘッド 沖縄テクノス 沖縄富士通 システムエンジニアリング 沖縄日立ネットワーク システムズ シュガートレイン ハーベル(2)	沖縄コカ・コーラボトリング サウスプロダクト EM研究機構
		内定学生1名 内定者に占める割合6%	内定学生5名 内定者に占める割合28%	内定学生8名 内定者に占める割合36%	内定学生3名 内定者に占める割合30%
	内定先企業名(県外)	アイシン精機 IHIエアロスペース・ エンジニアリング 岩谷マテリアル 大阪ガス カンメタエンジニアリング 神崎高級工機製作所 大和製罐 中部電力 東京電力 日陽エンジニアリング 富士通ミッション クリティカルシステムズ 前田道路 三菱重工神戸造船所 三菱重工長崎研究所 明治乳業	出光興産 NTTネオメイト(2) コベルコシステム 新日鉄(2) タップ 千代田計装 中部電力 デンソーテクノ 日本空港テクノ 富士通 ムラテックCCS	アイエックス・ナレッジ アプリックス 安藤証券 映像センター エヌアイシー・ソフト 国立印刷局 東海鉄工(2) トヨタコミュニケーション システム ハンモック ピクシブ株式会社 富士通アドバンスト ソリューションズ(2) 安川エンジニアリング	花王(2) 三洋化成(2) サントリープロダクツ ジャパン・ティッシュ・ エンジニアリング 雪印
		内定学生15名 内定者に占める割合94%	内定学生13名 内定者に占める割合72%	内定学生14名 内定者に占める割合64%	内定学生7名 内定者に占める割合70%
	求人数※3 (求人票の送付のあった企業の数)	322	319	288	1128

※1. 確定した進学先ではなく、合格した進学先を記載していますので、合格者数と内定者数の和が卒業予定者数にならない場合があります。

※2. 同一企業から複数名の学生が内定を受けた場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その合格数をかっこ()内に示しています。

※3. 求人票については、学科指定のある場合はその学科にカウント、学科不問の場合はすべての学科にカウントしています。

【求人票提出企業】 県内企業 47社 県外企業 290社

マニアックオリティー

高専祭



高専祭を終えて

高専祭実行委員長 赤嶺 海

こんにちは。今年度高専祭実行委員長を務めました、機械システム工学科4年の赤嶺海です。

沖縄高専では、去る11月15日に第5回高専祭が開催されました。また、今年度は高専祭と同時開催で辺野古にある企業と合同で第1回久辺テクノフェスタと同時開催の形となりました。一時は新型コロナウイルスの流行により、学級閉鎖や学校閉鎖のため開催が危ぶまれましたが、高専祭を支えてくださった教職員の方々や学生のおかげで当初の予定通り高専祭を行うことができました。

今回の高専祭では学生が自分の好きなことをして欲しいという考えのもと、マニアックオリティーというテーマを設定し、みんなが高専祭で好きなことに

熱中して欲しいという意味を込めました。また、熱中しているものを高い技術とクオリティーで父兄や地域の方々、高専を目指している中学生に披露し、ご来場していただいた方々、学生、教職員とすべての人が楽しめる高専祭になるように努力しました。

多くの課題がありましたが、みんなで助け合うことで無事に乗り越えることができ、私にとって非常に良い経験となりました。仲間と一緒に仕事を行うことができ、本当に良かったと思っています。

最後に、来場していただいた方々、高専祭を実行する上で支えてくださった教職員の方々、共に第5回高専祭をつくった実行委員と学生の皆様、本当にありがとうございました。



アイデア対決・全国高専ロボコン 2009 九州沖縄地区大会を開催 《沖縄高専が2年連続優勝》

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2009九州沖縄地区大会が、11月1日（日）に沖縄高専運営のもと、名護市21世紀の森体育館において開催され、九州沖縄地区の国立高専9校から20チームが参加し熱戦を繰り広げられました。

今年の競技テーマは「DANCIN' COUPLE（ダンシングカップル）」。2足歩行の手動ロボットが多足歩行の自動ロボットにプレゼントを手渡してカップルとなり、2体のロボットが協力してダンスパフォーマンスに挑戦するものでした。ロボットがジャンプやスピン、リフトなど難易度の高い様々な課題に挑戦し、課題をクリアすることに獲得した得点の合計で勝敗を競います。

地元の沖縄高専Aチームは、愛らしい精霊キジムナーが守り神シーサーと共に課題を次々とクリアし毎試合高得点を挙げ、強豪との激戦を制して見事九州沖縄地区大会2年連続の優勝に輝きました。

また、沖縄高専Bチームもベスト4という好成績を残し、オス・メス2体のヤンバルクイナの可愛い動きが評価され、ベストカップル賞と特別賞を受賞しました。

初のロボコン沖縄開催に県内外から大勢のロボコンファンが会場を訪れ、目の前で披露されるロボットのパフォーマンスに大きな声援が送られました。

優勝した沖縄高専Aチーム ▶



◀ ベストカップル賞の
沖縄高専 B チーム



糸村校長に優勝・受賞の
報告をする学生達 ▶



ロボコン九州・沖縄地区大会に
参加して

ロボット製作委員会 A チーム
堀川 知成

私はこの大会に参加できたことを本当にうれしく思います。

地区大会主幹校、前年度全国優勝、さらに全国優勝を成し遂げた頼りがいのある先輩方は引退し、3年生としてチームの中心にかかわっていく。前年度とは比べ物にならないプレッシャーの中、私の2009年ロボコンはスタートしました。初めは正直言って不安でした。今までは必ず上に先輩方がいてその人たちについていけばよかったのです。今年も先輩はいますが、インターンシップなどもあり、途中抜けることもあり必然的に自分の責任が上がっているのを感じました。そして4年生の先輩方がインターンシップで抜け、いざ自分がチームの一番上に立った時、これは生半かな覚悟ではいけないと感じました。そして今年は自分の年なのだと強く思いました。

今年Aチームが掲げた目標は先輩たちに続いての全国優勝でした。私はこの目標にとことんこだわることになりました。目標のためには妥協をしないようにし、またできるだけ自分の雰囲気にもチーム全体を巻き込むようにしていました。シーズン中の私はうるさいぐらい全国優勝と言っていたと思います。

そして大会直前に、高価で替えの利かないモーターが壊れ、急いで別のモーターに取り換えた状態で大会に出場しました。すべての試合がひやひやでしたが、優勝できて本当に良かった。半年という期間で多くの経験と大きな達成感を得ることができました。この大会に参加できて本当に良かった。

パソコン甲子園 2009

《沖縄高専デジタルアート部が準グランプリを受賞》

11月14日、15日に福島県会津大学で開催された「パソコン甲子園2009」において、本校学生が「デジタルコンテンツ部門」において準グランプリに輝きました。

同コンテストは全国の高校生・高等専門学校生が優れたアイデアと表現力、プログラミング能力等を競い合うものであり、デジタルコンテンツ部門では「神秘的な生命体」と題したテーマに沿って、動画・静止画等の作品によりあらゆる生命体を表現するものです。

準グランプリを受賞したのは、デジタルアート部学生3名(宮城将君、末次みなみさん、大城よしほさん(いずれもメディア情報工学科3年))によるチーム『Unlimited』が製作した『メバエ』です。この作品は主人公のロボットが植物を育てる様子を描いたものであり、種から発芽・開花し、花が枯れた後に新たな種を生み出すという植物の生命活動と、その植物を育てるロボットの感情の起伏を表現した作品となっています。学生達は、BGMや効果音に至るまで全てオリジナルの作品を作りたいというこだわりから、放課後はもちろん、休日も1日中作品の製作に励み、その努力が準グランプリという素晴らしい結果に結びつきました。

今回のコンテストにおいて、他のチームから多くの刺激を受けた学生達は次回の作品製作に意欲を見せており、学生達の今後の活躍が期待されます。

なお、同コンテストの「いちまいの絵CG部門」においても、本校学生(當眞早智衣さん(メディア情報工学科1年))が製作した1枚のCG作品『創作世界で』が見事佳作に選ばれました。



系村校長に優勝・受賞の報告をする学生達



パソコン甲子園チーム



「パソコン甲子園2009」に参加して

デジタルアート部 宮城 将

今回、パソコン甲子園という大会に初めて出場し、準グランプリを頂きました。この大会を通して学んだことは、「人の大切さ」です。友達や先生、周りの支えがなければ、このような賞を頂くこともなかったでしょうし、ましてや作品が仕上がることもなかったと思います。この場をお借りして、みなさんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

今回の大会は先輩が2連覇していたので3連覇というプレッシャーが私たちにかけられていましたが、私たちは「自分達らしい作品を作ろう。」ということ意識し、最初で最後の大会だから悔いの残らないようにやることを目標にしていました。

制作の過程でさまざまな壁が立ちましたが、チーム一丸となってそれを乗り越えてきました。

大会は高専祭と被ってしまい、クラスメイトに迷惑をかけてしまいましたが、笑顔で「がんばれ」と言ってくれたのでとても心強かったです。

しかし、大会に参加してみると他のチームのレベルがとても高く、賞を取れるとは思わず、取れても特別賞だろうと思っていたので、まさか準グランプリを頂けるとは思っていませんでした。3連覇できなかった事はとても残念でしたが、このような賞を頂けたのは今でも夢のようです。

これから進学、就職と新たな進路に向かって進んでいきますが、パソコン甲子園を通して学んだことを活かしていき、沢山のひととの繋がりを大切にしていきたいです。

学生達が製作した作品『メバエ』の一場面



ESS/MDDロボットチャレンジ 《沖縄高専初出場で見事「飛行競技奨励賞」を受賞》

2009年10月21日・22日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいてESS/MDDロボットチャレンジが開催され、沖縄高専からMDDロボットチャレンジ沖縄高専チーム“The Goships”が参加しました。

本競技会は、飛行船のハードウェア及びソフトウェアに各々で製作・改造を施し、指定された航路を飛行して各種点数を取得することで性能を競うという内容で、初出場ながらMDDロボットチャレンジ沖縄高専チーム“The Goships”が大学院生や大学生、高専専攻科生が参加する中で見事「飛行競技奨励賞」を受賞しました。

今回受賞した「飛行競技奨励賞」は準優勝に値するもので、チームでは来年度は「最優秀賞」を目標に頑張っていきたいと抱負を語っていました。



校長室にて受賞の報告



大会会場のビットにて最終パラメータ調整



試合会場にて集合写真



ESS/MDD ロボットチャレンジに参加して

メディア情報工学科
島袋 誠也

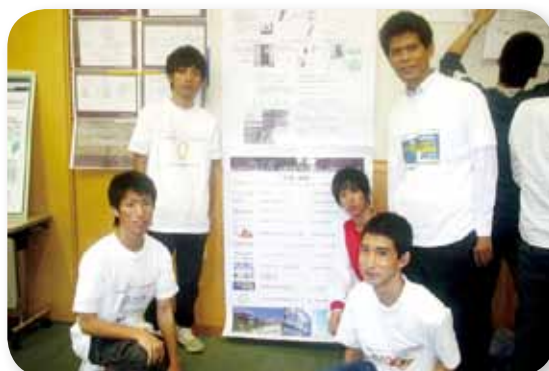
MDDロボットチャレンジ沖縄高専チーム“The Goships”は、2009年10月21日・22日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われたESS/MDDロボットチャレンジに出場しました。

本競技会は、飛行船のハードウェア及びソフトウェアに各々で製作・改造を施し、指定された航路を飛行して各種点数を取得することで性能を競うという内容で、タンスリヤボン・スリヨン先生を始めとする教員のご指導、県内企業の方からの協賛などもあり、初出場ながら見事「飛行競技奨励賞」を受賞することができました。

出場者は大学院生や大学生、高専専攻科生ばかりでしたので、その喜びは一層高まりました。私は今回チームリーダーを担当させていただきましたが、同級生の比嘉恵介君、大城優君、そして機械システム工学科3年生の備後博生君の優れたメンバーに恵まれ、約半年に及ぶ放課後を利用した研究や、夏休み期間中の合宿を共に努めてきた結果、実を結ぶことができ、大変嬉しく思います。

また、競技翌日に行われたESSと呼ばれる組み込みシステムシンポジウムでは、TOYOTAを始めとする企業などのポスターセッションを見学することができ、大変勉強になりました。私達のチームも同じポスターセッションの場で発表を行い、出場した他チームの方々に私達独自のシステムを紹介することができました。

さて、私達は来年度5年生になります。今回受賞した飛行競技奨励賞は準優勝に値するものでしたので、これに満足せず向上心を持ち、来年度は「最優秀賞」を目標に頑張っていきたいと思っています。



ポスター発表会場にて

高体連北部支部新人サッカー競技大会優勝!!

平成21年11月14日、12月5日に開催された「高体連北部支部新人サッカー競技大会」において、本校サッカー部が優勝に輝きました。現在サッカー部には17名の部員が在籍していますが、同大会に出場できる1、2年生は13名しかおらず、試合ができるギリギリの人数で大会に臨みました。また、大会前には高専祭の準備や中間試験があり、練習もままならない状態でした。

しかし、そのような状況においても部員全員が力を合わせ団結することにより、見事初優勝を果たすことができました。今回の優勝によって、学生達は勝利の喜びだけでなく人間関係の大切さを学ぶことができ、今後学生達が社会に出るうえでの貴重な経験となりました。

現在サッカー部は、来年1月に開催される沖縄県高体連新人サッカー大会に向けて練習に励んでおり、大会での学生達の活躍が期待されます。



校長室にて受賞の報告
後列左から糸村校長、バイティガ助教(監督)
前列左から副主将 島元貴広君・主将 玉城由基君



高体連北部支部
新人サッカー大会に参加して

メディア情報工学科
玉城 由基

サッカー部は現在、1、2年合わせてわずか13名しか部員がおらず、今大会に臨むにあたって様々な苦労がありました。

毎回私たちは、大会の前に気合いを入れて練習に励みますが、高専祭の準備・新型インフルエンザによる休校やその影響による補講・テストと、練習の時間をなかなか確保する事が出来ませんでした。

それでも、わずかな練習時間を大切に、みなさんでお互いを指摘し合って、何度もプレーの確認をしてきました。みんなが優勝したいという強い気持ちから、苦しい練習も乗り越えられました。

初戦の宜野座高校との試合では、リードされる場面もありました。また試合途中に、足をつる仲間も何人かいました。しかし、最後まで諦めない強い気持ちを持ち続けることで、見事逆転勝利する事ができました。

その試合から波に乗って勝ち進み、私たちは優勝決定戦まで勝ち上がる事が出来ました。相手は強豪の名護高校でしたが、相手に気後れせず、「初優勝」という目標のもと、最後まで奮闘し見事優勝を勝ち取ることが出来ました。表彰式で初めて「優勝」と書かれた賞状を受け取ったときは、とても嬉しく思いました。

ここまで勝ち上がったのも、素晴らしい仲間たちと共に練習に励んできたからだと思います。これからの大会でもいい成績を残せるように、優勝に驕らず練習を重ねていきたいと思っています。



サッカー部員集合写真

沖縄高専留学生在が 第3回日本語弁論大会で入賞 ～外国語で感動を伝える～

沖縄工業高等専門学校の留学生3名が10月23日に名護市国際交流会館で開かれた第3回日本語弁論大会(名護市国際交流親善委員会主催)に出場し、2名が見事に入賞した。

入賞したのは本校のメディア情報工学科四年生のゲン・ハンさん(ベトナム)と情報通信システム工学科三年生のホサイン・マルフくん(バングラデシュ)。ゲン・ハンさんは「私の…」という演題で優良賞に輝いた。それまで東京の友達を懐かしんでばかりいて沖縄になじめなかった自分だが、「君の考えが変わったら、君の周りの世界も変わる」という友達の言葉を聞いて周囲への見方が変わり、「私の友達」や「私のオキ(沖縄)」のように「私の」ものをたくさん手に入れることができたという。ホサイン・マルフくんは「夏休みの旅行」という演題で特別賞を獲得した。夏休みにバングラデシュに帰り、トイレ掃除をして働く十歳ぐらいの男の子や台風で破壊された南の地方で再出発のために一生懸命な人びとを見て思ったことを訴えた。自分の高専での勉強生活は大変ではあるが楽しく恵まれていることを理解し、満足と感謝を忘れずにいたいという。

この弁論大会は毎年1回開催され、今年で3回目。入賞者には副賞として賞金が授与される。発表者は学生に限らず名護市に関係する外国人一般とされるが、本人作成原稿の審査により出場者が決定し、大会当日は1人7分という制限時間の中で記憶した内容を心をこめて弁論する。今年は同高専学生のほか市内の大学・大学院生および一般の外国人合計9名が弁論し、満員の聴衆の耳目を集めた。



第3回 日本語弁論大会に参加して

情報通信システム工学科 留学生
ホサイン マルフ(バングラディッシュ)

私は、スピーチなどが得意ではありません。それは、とても緊張するからです。

それに、このスピーチコンテストの話を聞いた時は、病気から治ったばかりだったので、スピーチコンテストのようなストレスの高い活動に参加したいとは思っていませんでした。

しかし、夏休みに気づいたことを友達に話したら、「これをみんなに伝えるべきだ」と言われました。みんなに伝えるなら、スピーチコンテストはいい機会だと思いました。

原稿を書いて、練習して、コンテストに出ました。

自分は、あまり話し方が上手ではありませんが、スピーチをするとき、みんな真剣に聞いてくれました。自分の言いたいことをみんなに伝えることができてうれしかったです。

また、何か面白い事やみんなと共有したいことがあったら、その考えをみんなに伝えるために、このような活動をしていきたいと思います。

日本語が、出来ないからこそ、難しいからこそ、日本語でスピーチする意味があると思います。もし間違いがあったとしても、私には「日本語ができません」という逃げ道があるのです。



第3回 日本語弁論大会に参加して

メディア情報工学科 留学生
ゲン ハン(ベトナム)

「君の考えがかわったら、君の周りの世界もかわる」、あなたは信じるか、信じないか、この言葉を?

世界には、人々がいる。人によって人生が違う。ある人は生まれたときから豊かな生活をしている。またある人は生まれたときから辛い人生だと感じられる。しかし、どちらも、人として、有意義な人生になって欲しいと思う。

なぜ人は生まれて、死んでしまう?死んでしまうなら、生まれないほうがいいじゃない?人生は、うれしいことだけでなく、辛いことも多い。なぜ、その辛いことを、人は生まれて、経験しないといけないのか?誰も、死んでから、人がどこへ行くのか知らない。だから、人は天国と地獄とか、霊とか、神様などを信じている。その人の信じていることがあり、人はいつも自分の人生が良くなって欲しいと思う。

悪い人はいない!最低な人はいない!自分の良いところを見つけられない人だけがいる。

自分の考えがかわるなら、自分の周りの世界もかわる。

私はこの言葉を信じてやってみて、その結果手に入れたことについて、弁論大会で発表した。平成20年の弁論大会も参加したが、賞をもらえなかったから、今度は絶対賞をもらいたいと思った。弁論大会の前に、いろいろ考えた。どんなテーマがいいかと考えていた。友達からいろいろなお勧めももらった。「今環境問題が一番注目されていることなので、ベトナムと日本の環境問題について話したらいいよ!」などのお勧めをもらった。まずは、環境について話すつもりだった。アイデアがいっぱいあり、今度は面白くて意味がある話ができると思った。しかし、自分の中では何か不満だった。

環境は自分も分かるが、深くではない。話しても、自分の本当の感じることではないと思った。自分の実感で話したいと思い、自分が経験したことを話したいと思った。そして、テーマをかえた。このテーマは本当に自分の小さい世界での経験だけだから、賞をもらえないかなど考えたが、やはり、自分の気持ちを皆に伝えたいと思ったので、このテーマにした。

本番の日、本当に辛いときについて話したときは泣きそうになってしまった。経験したことが全部、辛いことも、うれしいことも、頭の中に出てきた。一番成功したことは、聞いてくれた皆に自分の気持ちを伝えられたことだった。

あなたの人生は辛くても、うれしくても、前に進まないといけない。しかし、あなたの人生の中には、忘れられないことがあり、そのことがあなたの人生を変える。どんな人生になるかは、あなたの考えに依存している。



◀ゲンハンさん(左から2番目)
ホサインマルフくん(同3番目)
糸村沖縄高専校長(同1番目)
吉川留学生交流促進センター教員
(同4番目)



審査委員長の吉川安一名桜大学教授(前列右から3番目)
ほか審査員(前列)と弁論大会出場者たち(後列)

地域連携事業

平成 21 年度地域共同テクノセンターについて

沖縄高専では、地域共同テクノセンターを窓口として、地域の振興及び発展、教育研究の充実並びに人材育成に取り組んでいます。平成21年10月には沖縄高専と浦添市との間では、産業振興や人材育成等を目的として連携に関する協定を締結し、当センターとしても、連携推進への協力を行っていく予定です。事業としては、9月に沖縄高専施設見学会、11月と2月に沖縄高専フォーラム、沖縄高専北部地域産学連携フォーラムを開催、及び各種公開講座の開催、地域イベント（産業まつり等）への参加を通して、沖縄高専の教育研究を地域へ発信しております。

また、県内小中学校等で出前授業を積極的に実施し、県内小中学生へ、ものづくりのおもしろさと科学への興味をもってもらおうお手伝いも行っております。



浦添市との連携に関する協定の締結



沖縄高専施設見学会



第 6 回沖縄高専フォーラム・技術交流会



沖縄の産業まつり



出前授業「アロマキャンドルを作ろう」



出前授業「エネルギーについて」



学生会より

学生会会長 安里 哲

ご無沙汰しております、学生会長を務めております機械システム工学科4年の安里哲です。

さて、今年度の学生会主催行事は体育祭に始まり、クラスマッチや地域清掃、さらには高専祭と、無事に全ての行事を開催することができ、また成功の内に終わることができました。これもひとえに学生全員が一つとなり、努力してきた成果ではないかと感じております。また、出会いと別れの季節が近づいておりますが、学生会におきまして5年生の先輩方が沖縄高専の学生生活を最高の形で締めくくれるよう、卒業式の準備を進めています。同時に、新入生を受け入れる準備も進めており、同じ志を持った仲間達と会えることを楽しみにしております。

時の流れというもの早いもので、私の任期も残すところあとわずかとなり、今年度限りで学生会を離れることとなりますが、最後まで全力で務め上げたいと思います。今後も学生会は未来ある技術者育成の一助となるよう、学生会一同邁進していくことでしょう。

結びに、1年間私を支えてくれた全ての方々に厚く御礼を申し上げます。

平成21年度学生会主催行事

2009年	4月	体育祭
	5月	第1回定期学生会議会 地域清掃
	6月	九州・沖縄地区高専体育大会 推戴式
	7月	オープンキャンパス クラスマッチ
	8月	構内清掃
	9月	～夏季休業～
	10月	臨時学生会議会
	11月	第5回高専祭 構内清掃
	12月	名護ソーデーマーチ 第2回定期学生会議会
2010年	1月	九州・沖縄地区高専交流会
	2月	第3回定期学生会議会 構内清掃
	3月	卒業式二部式



九州・沖縄地区高専交流会



九州・沖縄地区高専交流会



地域清掃 (5月)



名護ソーデーマーチ



後援会会長挨拶

後援会会長 宮城 秋夫

高専ロボコンでの九州・沖縄地区大会2連覇、パソコン甲子園では準グランプリの獲得に代表されるようにあらゆる分野で昨年も学生達の活躍は目覚しく、また、2期生の就職・進学内定状況も厳しい経済情勢の中、ほぼ100パーセントの内定率とよい成績を残しています。とても頼もしいかぎりであります。

そんな頑張っている学生を支援しようと後援会としても、本校が主管の二つの大きな大会(全国高専体育大会バスケット競技、高専ロボコン九州沖縄地区大会)の後方支援として、サーターちゅらかぎ隊と命名されたお母さん方を中心にバスケットのときに800個、ロボコンのときに400個の手りサーターアンダギーをチーム及び大会関係者に差入れし、うち一の心のこもったおもてなしは大好評でした。

私は、2期生の患息とともに今春後援会も卒業予定です。理事(2年)、副会長(1年)会長(2年)とあつという間の5年間でした。糸村校長先生をはじめ学校の教職員の皆さん、後援会の役員、会員の皆様に支えられ大過なく任務を遂行できたことに心から感謝いたします。そして、多くの方にめぐりあえたことは私の一生の財産となります。

今後とも『明るく、楽しい、元気のある』後援会活動のため、会員お一人おひとりのご協力ご指導を宜しくお願い申し上げます。

結びになりましたが、沖縄高専のますますのご発展と学生達の大いなる活躍を祈念いたします。

平成22年1月吉日



保健室より

保健室では看護師2名が在室し、学生生活を有意義に送って頂くため健康管理に関する様々な支援を行っております。

今年度保健室を訪れた学生は月平均169名(8、9月の休業日を除く)です。

保健室の一番の人気は、3台のベッドです。体調不良を訴え休養、発熱、疲労、睡眠不足、時には授業がないので休ませて欲しいと希望してくる学生もあり状態を見て利用させております。

2番の人気は測定器です。身長計・体重計は学生たちが楽しそうに話しながら測定しており、保健室にも笑みがこぼれます。

自動血圧計もあり、これは教職員に人気です。

10月以降はインフルエンザの影響で「体温測定にきました」「マスク下さい」と来る学生が多く、学生の自己管理が高まりを感じました。

今後も、保護者や教員の協力を得ながら、学生をサポートしていきます。

保健室の利用状況
(H21年4月～H22年1月)

保健室	
月	学生の 利用数
4月	152
5月	163
6月	161
7月	145
8月	90
9月	31
10月	236
11月	158
12月	191
1月	142

平成 22 年度学生募集結果一覧

◆推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	18	1	11	1
情報通信システム工学科	24	3	13	2
メディア情報工学科	15	9	6	6
生物資源工学科	10	9	5	8
男女別計	67	22	35	17
合 計	89		52	

◆専門実習（自己推薦）による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	21	6	5	2
合 計	27		7	

◆学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	48	1	27	1
情報通信システム工学科	52	3	25	3
メディア情報工学科	47	16	19	4
生物資源工学科	32	13	22	7
男女別計	179	33	93	15
合 計	212		108	

◆帰国子女特別選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	0	0	0	0
情報通信システム工学科	0	0	0	0
メディア情報工学科	1	0	1	0
生物資源工学科	0	0	0	0
男女別計	1	0	1	0
合 計	1		1	

学生課窓口のご案内

保護者の方へ

学生関係の担当窓口は下記のようにしております。
 用件により、該当する系の電話番号へお問い合わせ下さい。
 受付時間は平日の 8：30～17：00 となっております。
 なお、12：15～13：00 には充分に対応できない場合がございますのでご了承下さい。

教務係 0980-55-4028

学生係 0980-55-4032

寮務係 0980-55-4039

各系の業務内容

◆教務係

・授業、定期試験 ・教科書 ・休学、復学、退学、卒業 ・欠席、忌引、公欠、出席停止・保証人住所変更
 ・インターンシップ ・大学への編入学 ・研修旅行 ・学生証 ・在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書 等

◆学生係

・各種奨学金 ・授業料、入学科免除 ・学割、通学証明 ・課外活動、各種諸行事
 ・バイク、自動車通学許可 ・就職関係

◆寮務係

・入寮、退寮 ・寮の諸経費 ・寮生の生活 ・在寮証明書 ・外泊の連絡

平成22年度(前期)行事予定表

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
1	木	春季休業	1	土		1	火		1	木		1	日	サマースクール	1	水	夏季休業 寮整備・完全閉寮
2	金		2	日		2	水	↓	2	金	↓	2	月	2・3年次臨時休業日 美ら島総体 (カヌー・剣道学生動員)	2	木	編入学試験 合格発表日 寮居室チェック予定
3	土	在校生開寮 2～5年次・専攻科教科書販売	3	月	憲法記念日	3	木		3	土		3	火	臨時休業日 中学校等教員対象学校説明会	3	金	
4	日	入学式 新入生入寮 入寮式・寮対面式 2～5年次・専攻科教科書販売	4	火	みどりの日	4	金	前学期中間試験	4	日	オープンキャンパス	4	水		4	土	
5	月	新入生オリエンテーション 2～5年次・専攻科授業開始	5	水	こどもの日	5	土		5	月		5	木		5	日	学校説明会 (宮古・八重山会場)
6	火	1年次課題確認試験(数学) 新入生のノートPC設定会(3・4限時) 4・5年次健康診断 JABEEプログラム説明会(4年次)	6	木		6	日		6	火		6	金	↓ 中学校等教員対象学校説明会	6	月	寮業者ワックスがけ 予定
7	水	1年次・専攻科生 健康診断・歯科検診 新入生のノートPC設定会(3・4限時)	7	金	専攻科学力選抜試験問題 提出期限	7	月		7	水	(仮)七夕企画(出来たら実施) (学生会主催)	7	土	↓	7	火	
8	木	1年次授業開始 2・3年次健康診断・ 歯科検診	8	土		8	火	↓	8	木		8	日		8	水	
9	金		9	日		9	水	性に関する講習会 (1年生 LHR)	9	金	九州・沖縄地区高専体育大会 臨時休業日	9	月	予備日 (4・5年次・専攻科)	9	木	
10	土	開校記念日	10	月	専攻科学力選抜 願書受付	10	木		10	土	学校説明会(奄美会場)	10	火	予備日 (2・3年次・専攻科)	10	金	
11	日		11	火		11	金		11	日	↓	11	水	予備日(2～5年次) 全国高専体育大会	11	土	
12	月	専攻科推薦選抜 願書受付	12	水	定期学生会議会 (学生会主催)	12	土		12	月		12	木	予備日 (1・4・5年次・専攻科)	12	日	アジアの学生の 高専体験プログラム
13	火		13	木		13	日		13	火		13	金	編入学試験問題提出期限	13	月	寮業者消毒予定
14	水	部活動紹介 (学生会主催)	14	金	↓ 専攻科推薦選抜入学 確約書提出期限	14	月		14	水	クラスマッチ(学生会主催)	14	土		14	火	↓
15	木		15	土		15	火		15	木		15	日		15	水	
16	金	↓	16	日		16	水		16	金	九州・沖縄地区高専体育大会	16	月	前学期期末試験	16	木	
17	土		17	月		17	木	金曜日の授業	17	土		17	火		17	金	
18	日		18	火		18	金	臨時休業日 九州高専体育大会(カヌー) 学生動員	18	日	↓ 学校説明会(名護会場)	18	水		18	土	
19	月	学生寮避難訓練	19	水	地域清掃(学生会主催)	19	土		19	月	海の日	19	木	↓ 学生寮居室点検・清掃	19	日	↓
20	火		20	木		20	日	↓	20	火		20	金	↓ 全国高専体育大会 試験返却日	20	月	敬老の日
21	水	交通安全講習会 (1～3年次・寮生 LHR)	21	金		21	月		21	水		21	土	夏季休業 閉寮式	21	火	
22	木		22	土	専攻科学力選抜	22	火		22	木		22	日	閉寮	22	水	
23	金		23	日		23	水	慰霊の日(授業なし)	23	金		23	月		23	木	秋分の日
24	土	専攻科推薦選抜	24	月		24	木		24	土	学校説明会(那覇会場)	24	火	↓	24	金	
25	日		25	火		25	金		25	日		25	水		25	土	
26	月	学生寮避難訓練 (予備日)	26	水	薬物に関する講習会 (1年次 LHR)	26	土		26	月	編入学試験願書受付	26	木		26	日	
27	火		27	木	専攻科学力選抜 判定会議	27	日	公開授業週間・意見交流会 七夕笹の設置(学生会主催)	27	火		27	金	編入学試験	27	月	
28	水	専攻科推薦選抜判定会議 美ら島総体補助員業務説明会 (1～3年次 LHR)	28	金	専攻科学力選抜判定 結果通知 高校総体(総合開会式)	28	月		28	水		28	土		28	火	
29	木	昭和の日	29	土	県高校総体	29	火		29	木		29	日		29	水	
30	金	臨時休業日 専攻科推薦選抜判定 結果通知	30	日		30	水		30	金	↓	30	月		30	木	↓ 専攻科学力選抜入学 確約書提出期限
			31	月					31	土	サマースクール	31	火	↓ 編入学試験判定会議			
・地域ごみ拾い(学生会主催) ・学生寮居室点検・清掃			・学生寮居室点検・清掃 ・寮生総会(寮生会)			・九州・沖縄地区高専体育大会推薦式 (学生会主催) ・学生寮居室点検・清掃 ・サイバー犯罪防止に関する講演会			・学生寮居室点検・清掃			・美ら島総体 剣道8/2～6 カヌー8/2～7 ・校内美化(学生会主催前期終了時)			・1年生による出身学校訪問 ・寮業者壁等修繕		

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事